

Rim El Habibi, Media Associate, Tel.: +41 (0) 79 531 3111, rim.elhabibi@weforum.org

金融市場と自然環境におけるリスクが急速に増加している現状—グローバルリスク報告書 2013 年版の見解

- 長期にわたる経済的沈滞と極端な異常気象の多発によるより複雑なリスク構成を指摘
- 予想不可能な世界的脅威に対する国家の弾力性（レジリエンス）の重要性：国別弾力性評価システムへの新しい取り組み。
- 2013 年、3 つのリスクケース：健康問題への根拠なき過信、デジタル・ワイルドファイヤー、環境的・経済的なストレス。
- 世界経済フォーラムの「グローバルリスク 2013」の全文はこちら：<http://www.weforum.org/globalrisks2013>

2013 年 1 月 8 日、英国、ロンドン – 世界経済フォーラム、グローバルリスク報告書 2013 年版は長引く金融危機のために、異常気象が加速している現状にも関わらず、気候変動への危機意識が欠陥していることから、世界がより危険な状況にあると示しています。

この報告書では、世界に蔓延している2つの重大なリスクとして、「極端な所得格差」とその背景にある「長期にわたる財政不均衡」を取り上げています。これは世界の 1,000 名以上の有識者、産業界リーダーによるアンケート調査に基づいており、この調査結果では、政府債務残高への懸念が引き続き示され、また、この先 10 年の見通しについては、例年より若干悲観的になっていることが明らかになっています。

2012 年は、ハリケーン・サンディから中国での洪水において、異常気象災害に見舞われた年でしたが、アンケートの結果では、「温室効果ガス排出量の増大」がグローバルリスクランキングの3位に挙がっています。また「気候変動への適応の失敗」を今後 10 年において波及効果をもたらす可能性の最も高い環境的リスクだと有識者は判断しています。

同報告書の編集長であり、世界経済フォーラム、マネージング・ディレクターのリー・ハウエルは「報告書で示されているグローバルリスクは、人類にとって重要なシステムの不具合を知らせる警告となっています」と、解説しています。また、「国家はグローバルリスクに対する弾力性を優先し、大規模な動揺があっても国家の重要システムの機能の続行を確保する必要があります」と述べています。

スイス最大手保険会社、チューリッヒ・インシュランス・グループ、チーフリスクオフィサー、アクセル・P・リーマンによれば、「ハリケーン・サンディや島国・沿岸地域への自然災害の脅威に対するコストの増加に加え、温室効果ガス排出の問題にも解決策がない現在、世界にはすでに不吉な兆候が現れています。今こそ行動を起こすべき時なのです。」

更に、グローバルリスク報告書 2013 年版は、世界が懸念すべき最重要リスクケース3点を以下の通り発表しています。

1. 健康問題への根拠なき過信

人類の健康状態が大きく向上したため、私たちは、逆に健康について危険なほど無頓着になっています。細菌が抗生物質耐性を増加させてきたため、すでに過度な負担がかかっている健康システムをさらに破綻寸前に押しやっている可能性があります。今日、世界がより密接に繋がっているため、伝染病も蔓延しやすい状況にあります。このリスクケース分析では抗生物質の耐性増強、慢性疾患そして知的財産の国際的管理の失敗の関連性を検証しながら、国際的連携や異なる資金調達モデルを推奨しています。

2. 経済・環境へのストレス

急を要する社会経済的なリスクに関心が集中しているため、近年、気候変動の課題はなおざりにされがちです。異常気象による極端な災害が続いているにも関わらず、国際社会は内部にこの問題についての認識バイアスがあ

るため、長期的脅威に取り組むのを怠っています。このリスクケース分析では、構造的変化が起こっている経済、環境の両方のシステムに、最悪のシナリオが起こらないための戦略的投資の新しいアプローチに焦点をあてています。

マーシュ・アンド・マクレンアン・カンパニーズ(Marsh & McLennan Companies)の関連会社、オリバー・ワイマン・グループ(Oliver Wyman Group)最高経営責任者のジョン・ドウリッジは次のように述べています。「経済と環境、迫りくる二つの大嵐が激突しようとしています。過酷な気象事象を回避するために必要なリソースを適切に配分できなければ、次世代の繁栄は脅かされるでしょう。政界や経済界のリーダーは科学者とも協力して、これら複合的リスクに対処する必要があります。」

また、スイス・リー・グループ・リスク主席分析官のデビッド・コールは以下のように述べます。「残念ながら今日、経済または、気候変動の二つの危機への対応は一連の取組みとは見なされず、むしろ相反する選択肢だと考えられています。つまり、二つの問題の両方を解決することはできない、という考えが定着してきました。しかし、我々は型にはまった発想から脱却する必要があります。リスクをうまく管理するということは状況を総合的な立場から見るとことと変わりではなく、経済・気候変動の課題に対しても同じアプローチをとるべきです。」

3. デジタル・ワイルドファイアー

印刷機からインターネットに至るまで、新しいテクノロジーがどのように社会を形作っていくのかを予想するのはいつの時代でも困難でした。多くの場合、良い方向にむかう力になっているとも言えますが、情報の民主化は危険かつ予想不可能な事態も起こしかねません。反イスラム映画がユーチューブを通して広がり、各地で暴動が起こったケースが一例です。既存のメディアは情報の質を守る「番人」の役割を担っていましたが、それもなしくずしに崩れてきました。ですから、このリスクケース分析ではネット上の密接な接続性がどのようにして「デジタル・ワイルドファイアー」、つまりネット上の山火事のような事態を発生させるのかを考え、またそれを防ぐためには何をすべきかを問いかけています。

報告書の特別レポートは国家がもつべき弾力性(レジリエンス)をテーマにしました。世界経済フォーラムでは、国の弾力性評価の枠組みを作成し、各国の指導者が自国の弾力性の経過を判断できるようにしました。今日、国は単独で外因性のグローバルリスクに対応することができません。よって、その国に備わっている弾力性が守備の重要な第一歩となります。

報告書全体を通して、50のグローバルリスクを解説し、それらを5つのカテゴリー(経済、環境、地政学、社会的、テクノロジー)に分類しています。それぞれのリスクについての発生の可能性とインパクトという両面から、アンケートの回答者にそれぞれの評価をお願いしました。アンケートの集計結果によると、回答者の中でも若い年齢層は年配者より、より大きな懸念をリスクに対して持っていることが分かりました。また女性回答者は男性回答者よりもより悲観的な見解を多く示す傾向にありました。地域別にみると、北アメリカの回答者は他の地域の回答者と比べると、リスクが発生する可能性が高いと判断する傾向を示しています。

また、今後研究の対象となるべき未知の懸念項目、「Xファクター」が報告書で発表されています。これらのファクターの中には地球工学の悪用や頭脳の能力変換技術なども含まれています。

3つのリスクケースとXファクターについては、2013年1月23日から27日にスイスのダボスにて開催される世界経済フォーラム、2013年年次総会の特別セッションで集中的に議論をします。2013年年次総会のテーマは「弾力性のあるダイナミズム」です。

「グローバルリスク 報告書2013年版」はマーシュ・アンド・マクレンアン・カンパニーズ、スイス・リインシュアランス・カンパニーズ、チューリッヒ・インシュアランス・グループ、オックスフォード大学のマーティン・スクール、シンガポール国立大学、およびペンシルベニア大学のワートン・センター・フォー・リスク・マネジメント校の専門家たちの協力を得て編纂されています。

この報告書は世界経済フォーラムのリスク・レスポンス・ネットワークの最も重要な取り組みです。リスク・レスポンス・ネットワークはグローバルリスクの所在の理解、監視、管理により弾力性を育成する独自のプラットフォームを官民両セクターのリーダーたちに提供しています。

【編集者の皆様へ】

「グローバルリスク報告書2013年版」に関するお問い合わせ先:

Rolf Tanner, Director, Media Relations, Swiss Re, Switzerland, at: +41 79 234 4642 or

Rolf_Tanner@swissre.com

Jason Groves, Global Director Media Relations, Marsh, Marsh & McLennan Companies, United Kingdom, at +44 20 7357 1455 or jason.groves@marsh.com

Riccardo Moretto, Media Relations Manager, Zurich Insurance Group, Switzerland, at +41 (0)44 625 2100 or riccardo.moretto@zurich.com

Rim El Habibi, Media Associate, World Economic Forum, at +41 (0) 79 531 3111 or rim.elhabibi@weforum.org

Peter Winicov, Senior Associate Director, Marketing and Communications, The Wharton School, University of Pennsylvania, USA, at +1 215 746 6471 or winicov@wharton.upenn.edu

Julia Banfield, Communications Officer, Oxford Martin School, at +44 (0) 7972 284146 or julia.banfield@oxfordmartin.ox.ac.uk

Fun Yip, Senior Associate Director & Head (Media Relations), National University of Singapore, at +65 6516 1374 or fun.yip@nus.edu.sg

「グローバルリスク報告書2013年版」の全文: <http://www.weforum.org/globalrisks2013>

エグゼクティブ・サマリーをダウンロードする: [Español](#) | [Français](#) | [Deutsch](#) | [Português](#) | [Русский](#) | [日本語](#) | [中文](#) | [한국의](#) | [Việt](#) | [عربي](#)

「グローバルリスク報告書2013年版」の発刊発表の記者会見を2013年1月8日の9:30~10:30(グリニッジ標準時)にライブで見る、あるいは後にリプレイで見る: <http://livestream.com/worldeconomicforum>

Twitterでリスク・レスポンス・ネットワークをフォローする: <http://www.twitter.com/WEFRisk>. ご自身のツイートには #riskreport をお使いください。

リスク・レスポンス・ネットワークについてもっと知る: <http://www.weforum.org/RRN>

世界経済フォーラム2013年度年次総会の詳細: <http://wef.ch/Davos>

フェイスブックでフォーラムのファンになる: <http://wef.ch/facebook>

フォーラムのブログを読む: <http://wef.ch/blog>

Scribdでフォーラムの報告書を読む: <http://wef.ch/scribd>

今後のフォーラムのイベントを見る: <http://wef.ch/events>

フォーラムのニュースリリースを予約購読する: <http://wef.ch/news>

世界経済フォーラム(World Economic Forum)は、世界・地域・産業のアジェンダを形成するためにビジネス界、政界、学術界、その他各界のリーダーが連携し、世界情勢の改善に取り組む独立した国際機関です。

世界経済フォーラムは 1971 年にスイスのジュネーブに本部を置く非営利の財団として設立され、いつれの政治、党派、国家の利益とも関連はありません。(www.weforum.org)



World Economic Forum, 91-93 route de la Capite, CH-1223 Cologny/Geneva
Tel. +41 (0)22 869 1212, Fax +41 (0)22 786 2744, <http://www.weforum.org>